

資料1 「栄えの主イエスの」(When I survey the wondrous cross) 略解

作成 2023-3-15 岡本雅幸

■1. 概要

この讃美歌の原曲歌詞(資料2-2)を見れば、パウロ神学を歌っていることに気付かれることでしょう。

パウロ神学の中心の特徴は、旧約聖書を基盤としながら、神の愛が具体的に現された御子イエス・キリストによる贖いに焦点を当てていることです。そしてパウロは、このキリストを信じる信仰によって義と認められた者は、御霊によってキリストとの交わりの内に生活すべきこと、キリストの再臨による救いの完成を待ち望みながら「キリストにあって」行動し生きるべきこと、キリストへの完全なコミットメント(責任をもって自分が関わっていくことを明言・約束すること)を奨励します。

それを歌うこの讃美歌には、膨大な組織神学が限られた行(歌詞)に詰め込まれているとも言えます。

■2. 作詞者

イギリスの讃美歌の父アイザック・ウォッツ牧師(Isaac Watts、1674-1748)の代表作で、英語讃美歌中最もポピュラーな4つの歌の一つに数えられています。(他の3つは、讃美歌22番「めさめよわがたま」、98番「あめにはさかえ」、260番「ちとせの岩よ」です。)彼の作詞した讃美歌が私たちの『讃美歌』に17首も採り入れられています。これは『讃美歌』の中で最多です。

彼は幼時から詩才があり、1707年英国で最初の讃美歌集(Hymns and Spiritual Songs)を出版、生涯で600編以上の讃美歌を作り、チャールス・ウェスリーによるメソジスト運動と相俟って英国讃美歌の第2期黄金期を創出し、ドイツに勝るとも劣らない貢献をこの分野にもたらしました。

なお、邦訳歌詞は由木康牧師(1896 - 1985)によります。

■3. 作曲者

この曲は、ローウェル・メースン(Lowell Mason、1792 - 1872)が、グレゴリオ聖歌を原曲からかけ離れた形に編曲したものです。このことで、旋律の音域が僅か減5度の狭い範囲に圧縮されて歌い易くなっています。単純な和声でありながら個性を持ち、且つ厳粛な響きを持っており、彼の傑作の一つに数えられています。彼は独学で音楽を勉強し、音楽教育に力を注ぎ、後にボストン音楽学校を設立した。彼はアメリカで最初の「音楽博士」であり、米国の讃美歌史上重要な人物の一人です。

彼は欧州の曲を数多く編曲し、時には原曲の姿が判らないほどに手を加えて大衆的、民謡的且つ米国的に変えたことが米国人の好みに合致し、全米に広がる要因ともなりました。

以上